追加地盤調査について

資料３

１　課題

① 調査区間の南北に大阪層群と神戸層群の境界が２箇所想定されているが、既存調査結果からは大阪層群と神戸層群の境界位置を的確に把握できていない。

② 調査区間の北側（大阪層群）において、小野原断層（あるいは小野原断層帯の南端）の位置が把握できていない、また、大阪層群と神戸層群の境界が近傍にあると考えられ、地層不整合面が想定されるとともに、トンネル坑口付近の地質状況が確認されていない。

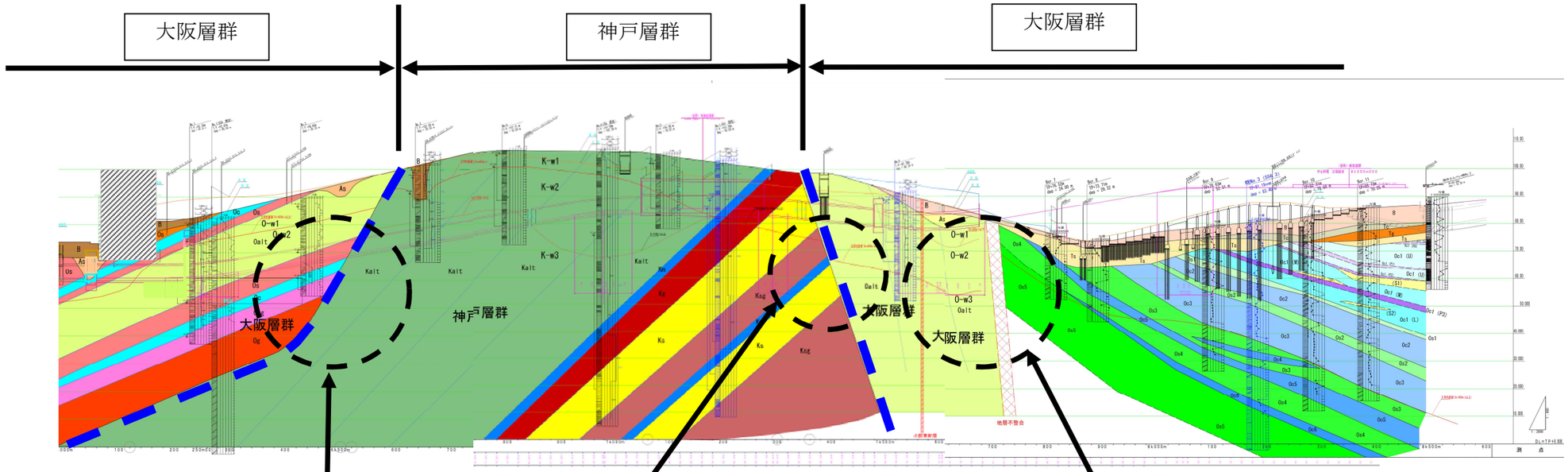
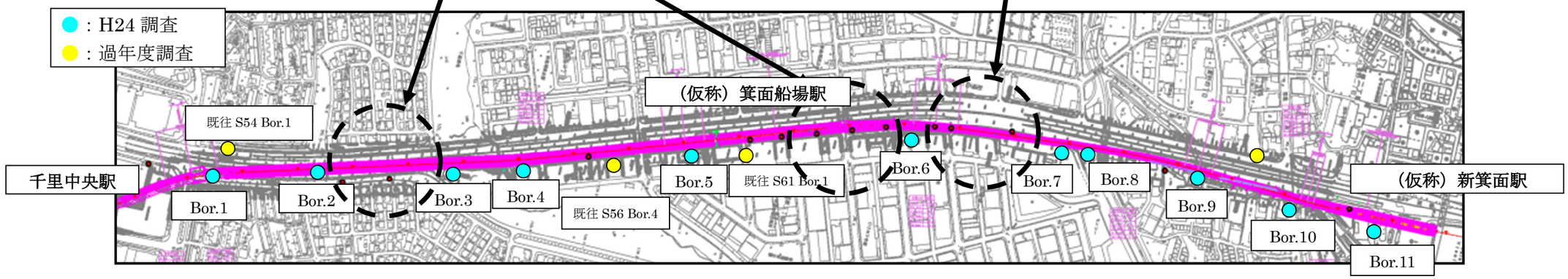


図　地質想定図

① 大阪層群と神戸層群の境界が不明

② 断層位置不明及び地層不整合



2　追加調査

今回の調査については既存ボーリングデータを考慮し、ある程度地質データが等間隔となるようボーリング調査を実施したが、結果として大阪層群と神戸層群の境界の特定や小野原断層の位置の特定には至っていない。これは調査区間の一部が複雑な地層を構成していると想定されるとともに、既往ボーリング調査が連続性に欠けるためである。

このため追加調査については、層群境界と断層位置をより詳細に把握するために、連続的な地質状況を把握推定できる弾性波探査（反射法）を実施し、計画路線の地質状況を把握する。併せて、必要と考えられる箇所についてボーリング調査を実施する。

計画路線における地質状況の連続的な把握

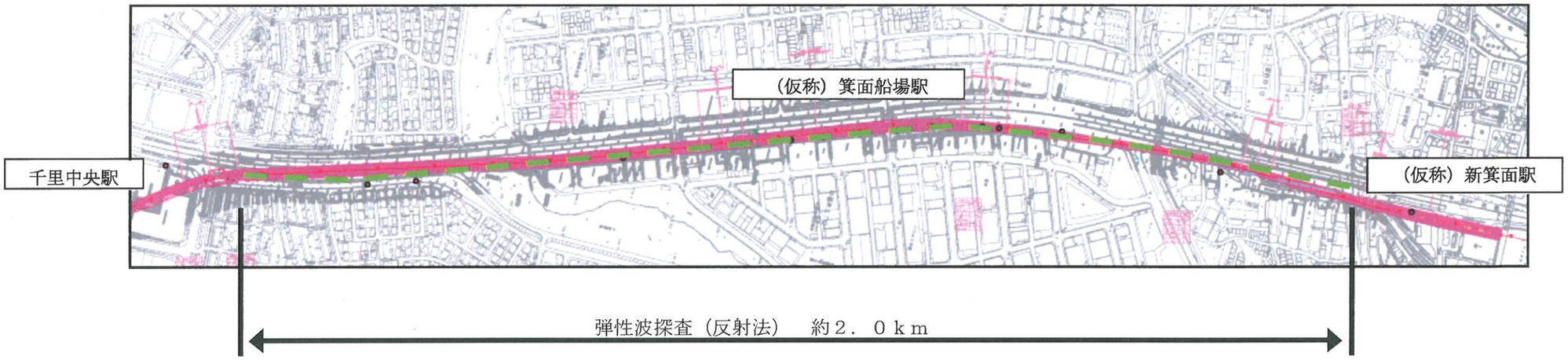
【目　　的】

大阪層群と神戸層群の境界及び地層不整合箇所における地質状況の推定

既往 S56 Bor.3

【調査内容】

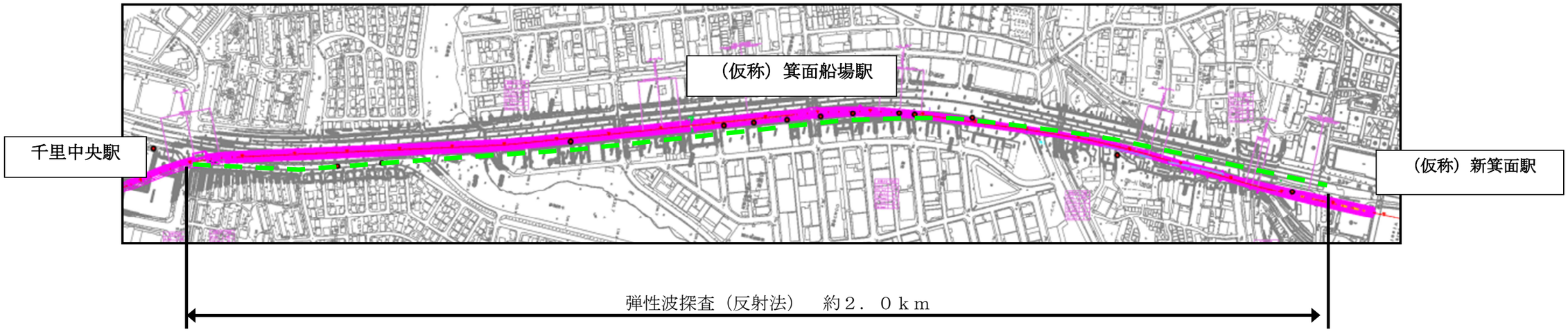
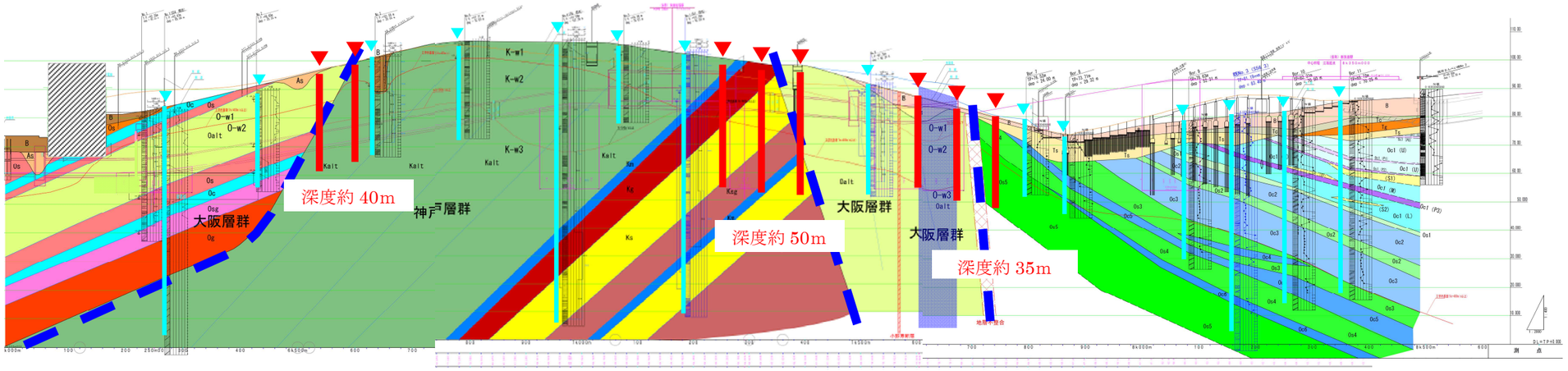
弾性波探査（反射法）　約２．０km（国道４２３号、新千里東町１丁目交差点から萱野交差点）



３　まとめ

調査内容（案）

（１）弾性波探査　反射法地震探査　２．０ｋｍ

（２）土質調査

①調査ボーリング（コアボーリング含む）	８箇所	計　３３５ｍ	⑥PS 検層	１式
②標準貫入試験	８箇所	計　３３５回	⑦乱さない試料採取	１式
③孔内水平載荷試験	１式		⑧室内土質試験（物理・力学・動的）	１式
④現場透水試験	１式		⑨室内岩石試験	１式
⑤湧水圧試験（JFT）	１式		⑩調査等解析	１式